

瀬戸内市民図書館 せとうち発見の道企画展

## 「郷土が生んだ小説家 土師清二」

展示期間:令和 8 年(2026)3 月 3 日(火)~令和 8 年(2026)5 月 24 日(日)

展示担当:瀬戸内市産業建設部文化観光課

### ◆ 大衆小説家 土師清二とは



土師清二 (撮影 高相嘉男)

明治 26 年(1893)9 月 14 日 邑久郡国府村に父・赤松久五郎と母・津喜の一人息子として生まれる。本名は赤松静太。早くに父を亡くし、丁稚奉公に出る。

19 歳で上京、26 歳で大阪朝日新聞社に入社。

週刊朝日の創刊に関わり、その中で土師清二名義としては処女作となる『水野十郎左衛門』を連載。筆名の土師は、母の生まれ故郷である国府村土師(現在の長船町)から、清二は本名の静太をもじってつけたものだという。昭和 2 年(1927)から東京・大阪朝日新聞で『砂絵呪縛』を連載し一躍人気を博す。その後も次々と連載、発刊を繰り返し、多くの著作を世に送り出した。小唄、俳句、釣りなどの趣味にも造詣が深く、趣味人としても知られている。昭和 52 年(1977)2 月 4 日、心筋梗塞により 83 歳で逝去。

### ◆ 父親の死

土師の父親・久五郎は土師が 10 歳の頃に腸チフスで亡くなる。享年 36 歳であった。村に伝染病の避病院が出来たばかりで、その第一号患者として運び込まれたということだった。このことについて、当時腸チフスは死病と思われており、「父は腸チフスの療法の発達していない頃に罹病したから死んだのだ」と土師は語っている。父が亡くなり生活に困窮した土師は、小学校高等科一年で中途退学し、西大寺の呉服店や岡山市の荒物履物卸問屋へ奉公に出ることとなった。

### ◆ 新聞記者としての活躍

17 歳となった土師は、活版用具店に勤めながら小説を独学で書き、19 歳で上京。21 歳のとき、同郷の石川安次郎の推薦で中国民報の校正係となり、大阪時事新報を経て 26 歳で大阪朝日新聞社に入社した。入社後、小倉敬二とともに提出した新大衆雑誌のプランが採用され、『週刊朝日』の創刊に携わることになる。その中で、土師は社会部員と編集者を兼ねながら、『水野十郎左衛門』を執筆・連載することとなった。全 12 回の連載であったが、好評のうちに完結した。その人気を皮切りに、『駿河大納言の死』、『臍の緒と遺書』を次々と発表。昭和 2 年(1927)6 月からは代表作となる長編小説『砂絵呪縛』を東京・大阪朝日新聞で連載した。

#### ◆ 代表作『砂絵呪縛』

土師清二の代表作として知られる『砂絵呪縛』は、多くの読者を魅了した作品である。この物語の舞台は、徳川綱吉が治めていた江戸時代。將軍家の後継争いを軸に、美剣士や悪党、美女、砂絵師といった多彩な人物たちが入り乱れ、怒涛の展開で物語が進んでいく。その緊迫感や謎めいた雰囲気、この作品の大きな魅力となっている。

この作品が発表された昭和 2 年(1927)は、田中義一の政友会内閣による山東出兵や金融恐慌の勃発、芥川龍之介の服毒自殺など、暗い出来事が相次ぎ、人々の不安が渦巻いていた時期だった。そのような不安な時代背景の中で、大衆の心を惹きつけたのが、伝奇小説ならではの怪しげで暗い雰囲気を漂わせた『砂絵呪縛』であった。この作品は、多くの読者にとって日々の不安から逃れる娯楽であり、心を揺さぶる魅力を持つ物語となった。

#### ◆ 長谷川伸との交流

長谷川伸(1884～1963)と土師清二は同じ新聞出身の小説家であり、同時期に活躍し、作風も似通ったところがある。土師が『水野十郎左衛門』を刊行した大正 14 年(1925)の秋、長谷川らとともに結成したのが二十一日会<sup>※1</sup>と呼ばれる大衆作家の運動機関だった。長谷川の方が十ほど年は上であったが、二人は互いに作家として認め合い、特に交流が深かったとされる。前述したとおり、土師は不遇な少年時代を送っているが、長谷川も三歳で実母が出て行き、小学校を中退している。働きながら勉学に励み、苦勞した少年時代を送ったという点では共通したものがあっただろう。

土師は何か意気消沈するようなことや進退に迷うことがあると、長谷川に会いに行った。そうするとご利益があらわれると言っていたそうだ。長谷川が亡くなった後、長谷川の遺志で新鷹会<sup>※2</sup>が設立されるにあたり、土師は理事長に就任している。

※1 <sup>にじゅういちにちかい</sup>二十一日会

大衆作家の親睦団体。本山荻舟、長谷川伸、国枝史郎、平山蘆江、江戸川乱歩、小酒井不木、正木不如丘、矢田挿雲、土師清二、白井喬二、直木三十三(のちに三十五と改める)らが名を連ねていた。

※2 <sup>しんようかい</sup>新鷹会

前身である十五日会が改称され、新人作家の発掘、創作の研究を目的として設立された財団法人。